

「知事とのフレッシュトーク」(平成24年12月11日実施)の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成24年12月11日(火)に青森市の県立青森中央高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森中央高等学校の概要

明治37年に創立。平成26年には創立110周年を迎える伝統校である。平成8年に男女共学となったほか、平成15年にこれまでの学科を改編し総合学科に移行した。特徴として、総合的な学習の時間を「あすなろ学」と命名し、行政・地域と連携しながら、高校生の視点からの社会提言及び社会貢献を目標とした実践活動に取り組んでいる。

総合学科705名が学んでいる。(平成24年5月1日現在)

◆開催◆

校長歓迎のことば

本日はお忙しい中、青森中央高校に来てくださり、誠にありがとうございます。

知事と高校生とがトークできる貴重な機会を、生徒、教職員一同、大変楽しみにしていました。

本校は県内に6校ある総合学科設置校の1つで、青森市、弘前市、八戸市の3市の中では唯一の高校ということで、地元から非常に大きな期待を寄せられています。1年生は「産業社会と人間」という科目、2、3年は社会研究、「あすなろ学」と称していますが、キャリア教育を積極的に推進しています。部活動も文化部、運動部とも全国で活躍しています。

本日は、その一端を披露させていただきます。全て生徒がお話しますので、よろしくお願ひします。

実り多い1日になることを祈っています。

知事あいさつ

おはようございます。

今日は、皆さんとお会いできるのをとても楽しみにしていました。というのは、先日、夕飯の買い物をしていると、生徒の一人から、今日の意見交換を楽しみにしていると声をかけてもらい、とても嬉しく思っていました。

私は、小学校、中学校、高校、あるいは職場を訪問し、皆さんから意見を聴いたり、質問に答えたりしていますが、どの場面でも思うことは、青森の学校では、生徒の皆さんが

いつも元気で、前に向かってチャレンジする気持ちを持っています。そのことをいつも嬉しく感じていました。

皆さんは、私がりんごのアロハシャツを着ているのを見たことがありますか。私がトップセールスで青森県のりんごを全国、あるいは台湾やインドネシアといった国で売り込んでいる時に着ているりんごのシャツは、実は青森中央高校に作ってもらったものです。そのこともあり、学校の前を通るたびに、ぜひ1度皆さんのところに会いに行き、話をしたいと思っていました。

今日は、未来を担う皆さんと、真正面から話ができることを楽しみにしています。そして、幅広い意見を聴きながら、いただいた意見の中で可能なものは取り入れながら、少しでも皆さんと一緒に青森県を、日本を、世界をよくしていき、前に進みたいと思っています。ですので、ステージにいるメンバーだけではなくて、積極果敢に会場に突撃インタビューをしようと思っています。

この90分の時間を1つの舞台として、皆さんと一緒にドラマを作りたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

◆生徒と知事との意見交換◆

○学校紹介

発表者1名（1年、女子、生徒会副会長）

私たちが通う青森中央高校は、1904年に創立しました。2年後の2014年には創立110周年を迎える歴史ある伝統校です。女子校としてスタートしましたが、1996年には男女共学となりました。2003年より、総合学科に移行しています。部活動では、ハンドボール部、ボート部、アーチェリー部、フェンシング部が県大会を制し、インターハイに出場しています。また、演劇部は全国優勝3回、準優勝2回を誇る、全国屈指の強豪校として活躍しています。

○演劇部による披露

※演目：～もしイタ～もし高校野球の女子マネージャーが青森の『イタコ』を呼んだら
通常60分の上演時間を20分に短縮したダイジェスト版を披露。東日本大震災によってチームメイトや家族を失い、青森に転校してきた主人公の成長を通じ、被災地へのエールを送っている。被災地応援公演の一環として、全国各地で上演されている。

発言者1（3年、女子、演劇部部长）

※演技終了後に質問

ここで知事に要望があります。

私たちは、去年の10月から、被災地を応援するために各地を回り、この作品を上演し

てきました。ボランティアでしたので、資金を作るには大変苦勞しました。青森市内の公演でいただいた寄付ではまかないきれずに、学校からも補助をいただきました。

そして今年度は、文部科学省から助成をいただきました。今後も被災地で上演していきたいと考えています。

そこで、このような高校生の活動に対して、県として助成していただくことはできないでしょうか、お伺いいたします。



知事

とても素晴らしい演劇を見させていただきました。

助成制度の話がありました。現在、県として個別に支援する仕組みはありませんが、県以外にも、具体的に支援を受けられそうな制度を調べてきましたので、説明してもらいます。

企画政策部次長

今、知事から話があったように、現在、県としては、個々の芸術・文化団体の活動に対して助成する制度はありませんが、東日本大震災の復興支援を兼ねた活動に対して、例えば、公益社団法人企業メセナ協議会が実施している復興支援ファンドというものがあり、皆さんのように、被災地に訪れて行う様々な活動に対して支援をするといった制度もあります。皆さんは、来年度も被災地を訪れて上演することがあると思いますので、そのためのステップとして、この制度を紹介させていただきます。

知事

このように、利用できそうな仕組みがありますので、県としても働きかけていきたいと思っています。皆さんの演劇は、非常に素晴らしく、今日を乗り越えて明日に向かっていくことに繋がる内容ですので、応援できるような仕組みがあれば、それを獲得できるように、我々としても声をかけていきたいと思っています。

今日は本当に素晴らしい演劇を見させていただきました。ありがとうございました。

○あすなる学の紹介

※3年の「あすなる学」について、引き続き演劇部が、津軽海峡冬景色の替え歌「青森中央あすなる学」により紹介。

発表者1名（3年、女子、演劇部）

あすなろ学という名前は、自分たちの町を高校生の視点で「明日はこうしたい」という意見をもって活動するという趣旨と、「あすなろ」の木の名前の由来を重ねて決定しました。

私たちは、あすなろ精神からいろいろなことに挑戦したり、調べたり、学んだりしています。

知事

これからも挑戦して、学んでください。

ありがとうございました。

※引き続き、あすなろ学の学習成果報告として、生徒が制作したアニメーション2本を紹介。

※引き続き、青森県の医療の現状について、生徒から発表。

発表者3名（3年、女子）

これから、青森県の医療の現状についての発表を始めます。

私たちがこのテーマを選んだ理由は、将来、医療系の仕事に就こうと考えているため、青森県の医療の現状について学びたかったからです。

私たちの活動は大きく2つに分かれます。

1つ目は、心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）などの使い方の体験学習です。

2つ目は、生活習慣病の講義です。

まず、体験したことについて説明します。

体験学習の1つ目は、心肺蘇生法です。心肺蘇生は、胸骨圧迫と人工呼吸を救助隊が来るまで繰り返します。胸骨圧迫は胸の真ん中に手を置き、30回連続で強く早く絶え間なく圧迫し続けます。実際に人形を使って体験してみて、腕を垂直にしないと上手く体重が乗らず、とても体力が必要だと思いました。

人工呼吸は、気道を確保し、鼻をつまみながら息を吹き込みます。もし、胸が上がるまで息が入らなくても2回までとし、素早く胸骨圧迫を再開します。実際に人形を使って体験してみて、思うように息が入らず、成功するのに何回も練習しました。

体験学習の2つ目は、AEDについてです。

AEDは電源を入れると音声ガイダンスが流れます。細かい使用手順は省略しますが、実際に使用する時には焦ってしまい、頭に入ってきませんでした。皆さんには実際に講義などで体験しておくことをお勧めします。

体験学習の3つ目は包帯法です。保健室の先生にご指導いただきました。ペアになってお互いの頭や腕に包帯を巻く練習をしました。

体験学習の4つ目は献血です。実際に日本赤十字血液センターに行き、献血を体験してきました。行けば誰でも献血ができるというわけではありません。血管が細すぎる人や貧血の人、薬を服用している人などは献血は行えません。しかし、血液が足りていませんので、協力したい人は、ぜひ日本赤十字血液センターに行ってみてください。

以上の体験を通して分かったことは、実際に試してみると難しかったことと、意外と体力が必要だったことと、声をかけながらやるのが大切だと分かりました。

次に生活習慣病の講義で学んだことを説明します。

青森県民の平均寿命は全国で最下位です。皆さんは知っていましたか。青森県民の主な死因は、がんが一番多く、がんを含めて全体の75%が生活習慣病が原因となっています。生活習慣病になる原因の1つは飲酒です。青森県民は全国で一番飲酒者が多いです。また、喫煙者も全国平均よりも多いことが分かりました。他にも青森県民には肥満者が多く、その原因は食生活にあります。食生活の特徴は、カロリーの摂取量が多い、食塩の摂取量が多い、食べる食品の数が少ないことが挙げられます。

生活習慣病を防ぐためには、肥満予防が大切です。食事量は腹八分目にする、一口入れたら30回噛む、油脂分の摂取を抑える、食器を小ぶりなものに変える、何を食べたかその内容を書き出してみる、食事を楽しむ、これらを心がけることが大切です。

また、講義からは、青森県は健康に気を付けている人が少ない、飲酒や喫煙が寿命の長さに関係している、普段の生活を改善することでもっと健康な人が増えることが分かりました。

講義や体験を通して、ますます将来の夢に向かってのモチベーションが上がり、これらのことを活かして、もっと地域のために貢献したいと思いました。

これで青森県の医療の現状についての発表を終わります。

発言者2（3年、女子）

青森県の医療の現状についての質問です。

私たちのプレゼンにもあったように、青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課の資料によると、青森県の平均寿命と75歳未満の全がん死亡率は、全国ワースト1位です。私たちはこの問題を深刻に受け止めています。

一昨日の新聞記事を拝見する限り、知事もこの問題について深刻に受け止めているのではないのでしょうか。この問題を改善するために、県として何か対策を取っていますか。

また、この現状において、医療機関や医療従事者は十分だといえるのでしょうか。

そして、医療従事者を育成するための大学、短大、専門学校の募集定員は適当だと思いますか。

知事

とても良い質問をしてくれたと思います。そして、よく調べてくれました。ありがとう

ございます。

プレゼンで出てきた課題の中で、お酒の話がありました。青森県民は日本で一番お酒を飲んでいますが、たばこの話もありました。この間、たばこ税が上がったのに、たばこをやめる人が少ない。すごいショックでした。塩分の話もありました。青森県には自分たちの周りに安くておいしいものがたくさんあるので、特に魚卵系の食べ過ぎには注意が必要です。そして、生活習慣病が、腎臓系の病気、肥満からくる病気などに至る道筋になるということ、よく調べてくれました。

生活習慣病は、食生活の習慣からくるものなので、一人ひとりが考えなければならない問題です。県で、どのような対策をとっているかということですが、今、ヘルスリテラシーということに取り組んでいます。健康のための教養ということになると思いますが、青森県は、健康を考える、健康とはどのようなことかという基礎知識において、実はものすごく欠けているということが分かりました。県全体としても、小学生の頃からの健康学習、これは健康づくりだけではなく、健康とはどのような状態のことなのかということも学んでもらう取組を始めることにしました。これは時間がかかりますが、一番大事な戦略だと思っています。

そして、死亡率の話や、がんの話も出ましたが、国立がんセンターから青森県立中央病院に来てくれた院長が、青森の場合は、糖尿や痛風に罹^{かか}っている人の割合がものすごく多いため、免疫力が弱くなり、がんと戦うための抵抗力が落ちてしまうと教えてくれました。全ての原因は生活習慣病にあると思いますが、生活習慣病は脳卒中や脳梗塞、心筋梗塞にも繋がっていきますので、注意が必要です。

健康で長生きすることは大事なことだと思います。がん対策もそうですが、その前に肥満などの生活習慣病対策、健康のことを学習する戦略が必要と考え、がんや生活習慣病の対策をする課を県庁内に立ち上げました。

小学生の分野で肥満になっている割合が全国でもトップクラスにある今、県全体として一生懸命力を入れているのは、健康とはどういうことだろうと学んでもらうことです。皆さんには、ヘルスリテラシーについて、しっかり保健体育などの授業で学んでいただきたいと思っています。

それから、県では、短命を予防するため、20年近く食生活改善運動に取り組んでいますが、生活習慣病は普段の生活の積み重ねによるものですので、地道ではありますが、塩分や脂肪の摂取量を減らしたり、食べ物をよく噛んだりすることを、皆さんにも真剣に考えてもらいたいです。

今日、朝食は何を食べてきましたか。



発言者 2

トースト 2 枚と目玉焼きです。

知事

私は、今朝、ご飯、インスタントの味噌汁に 1 パックの 3 分の 1 の豆腐を入れたもの、納豆、トマトを食べてきました。昨日の夜は、鍋に野菜をたくさん入れて食べました。食生活はとても大事です。皆さんには、食育に興味を持っていただけるとありがたいです。そのために、県では、食育のことを教えに各学校に職員を講師として派遣する取組も行っていますので、ぜひ利用してみてください。酒、たばこ、塩分、少なくともこの 3 つだけでも考えてくれると嬉しいです。

医療従事者についてですが、医者が圧倒的に足りない状況の中、私が知事に就任して取り組んだのが、青森の子どもたちに医者になってもらおうという働きかけでした。例えば、高校生に集まってもらい、大学の医学部の先生がレーザーメスを使っているところを見てもらったり、予備校の先生に来てもらい、授業をしてもらったりしました。驚いたことに、本県出身の医学部合格者数は、平成 19 年まで約 40 名しかいませんでしたが、次の年から合格者が増え、今では倍の約 80 名が医学部に合格するようになりました。卒業するまで 6 年かかりますが、将来、青森で活躍してくれることを期待しています。弘前大学の医学部にも青森県の枠を作ってもらいました。

あと、県立保健大学や県内の医療系の専門学校などで、福祉・医療関係の資格取得の仕組みづくりに取り組んでいます。北海道や首都圏に就職して、3 年くらい経験を積むと、腕が上がりますので、県としては、3 年経ったら青森に帰ってきてもらえるような作戦にも取り組んでいます。このように、医療従事者を育成する取組にも力を入れています。

将来の夢は何ですか。

発言者 2

管理栄養士になることです。

知事

管理栄養士になったら、ヘルスリテラシーについて、子どもたちに教えてください。

※ここで、健康に関する知事から生徒への突撃インタビュー。

知事

健康づくりについてはどのように考えていますか。

生徒A

野菜を食べることが大切だと思います。

知事

青森県民の課題は、野菜をたくさん作っているのに、野菜を食べないことです。

生徒B

きちんと3食、食べることと、パンだけでなくご飯を食べることを心がけています。

生徒C

ご飯は、多い時で茶碗に5杯ぐらい食べます。



知事

若いうちはいいけれど、せめて半分の2. 5杯くらいにしたほうがいいと思います。また、小さい茶碗を使うのもいいかもしれませんね。

健康は、最後には自分自身に跳ね返ってきますので、繰り返しになりますが、酒、たばこ、塩分については、自分で考えて摂生しましょう。よろしくお願いします。

○その他意見交換

発言者3（3年、女子）

県で、近隣アジア諸国と高校生レベルでの国際交流がもっとできたらと思っています。

また、国際化を推進するためにも、東北新幹線の新青森駅開業を迎えた今、外国人を含めた観光客等へのおもてなしの心について意識を高める必要があるのではないかと考えています。

これらについてのお考えをお聞かせください。

知事

国際交流については、県庁内で観光国際戦略局という組織を立ち上げるくらい力を入れています。アジアの中での日本ということを考えてみてください。世界地図を見ると、日本は東アジアの国々にもものすごく近いです。明治以降、アメリカやヨーロッパについて学ぶ機会が多かったのですが、国際交流という面においては、もっとアジアの国と親しくならなければならないと思っています。

観光国際戦略局では、日本が世界で生きていく中で、世界に直接行き来したり、商売をしたり、観光客に来てもらえるような青森県を創り上げるための取組をしていきたいと思

っています。

私から皆さんにクイズを出します。現在、青森県が国際定期便を持っている都市は、大連、ソウル、台北のうち、どこだと思えますか。

正解はソウルです。青森・ソウル便は、以前、週4便就航してましたが、現在は週3便です。今後、利用者が増えなければ、もしかしたら更に減便になるかもしれないという、大変な状況になっています。



東青地域県民局長

知事がこの問題に熱意を持っている大きな理由は、若い人たちにグローバルな視点を持ってほしい、そのためには世界への窓口をきちんと設けておきたいという思いがあるからです。私としても、青森の高校生の皆さんが、青森・ソウル便を使って、たくさん交流してほしいと思っています。

ちなみに、高校生レベルでの交流についてご紹介させていただきます。去年は、弘前工業高校と弘前南高校が中国の高校生と交流しているほか、六ヶ所高校が韓国ヤンヤンの襄陽郡の生徒を受け入れて交流しています。また、青森南高校の外国語科の生徒が、韓国への研修旅行という形で現地の高校生と交流しています。

今年も、県内の高校生が中国を訪問して交流していますし、弘前実業高校が韓国に修学旅行に行き、交流しています。

私も先ほどの演劇を見て、すごく感動しました。青森中央高校では、平成18年に韓国の高校との交流会を実施したと伺っています。韓国には小劇場がたくさんありますので、例えば、演劇を通じた交流をするのであれば、青森空港国際化推進協議会というところで、やり方によっては、韓国との交流について支援できる可能性がありますので、その際には、私としても間に入り、お手伝いをさせていただきます。

知事

海外への修学旅行については、応援する仕組みがいろいろあります。高校生という若い時期にアジアの国々と交流するには、やはり、修学旅行がいいと思います。ただ、県立高校の先生方にも韓国に行ってもらい、修学旅行について検討してみませんかと声をかけていますが、リスク上の問題もあり、なかなか決断が難しいようです。

ほかにも留学制度や、いろいろな団体からの支援により、国際交流をもっとすべきだと思います。そのためにも、青森・ソウル便を守りたいと思っています。

実は、東日本大震災以降、海外からの観光客の復活率が最も高かったのは青森県です。交流活動でいろいろなことをしていたので、青森を応援しようということで、韓国、台湾、アメリカもそうですが、そのような地域の方々がどんどん来てくれています。

また、県でも支援制度を作っていますので、皆さんも、就職したら一度海外に行ってみただけいたら嬉しいです。行くとすごい元気になり、それだけでも心に響くと思います。将来の夢は何ですか。

発言者3

来年から就職するので、その仕事を続けられるようにしたいです。

知事

一つの仕事を続けていくのは、大事なことです。頑張ってください。

※知事から生徒に行きたい国についてアンケート。

知事

皆さんにお願いがあります。世界に興味を持つ。青森のことだけ、日本の国内のことだけ見るのではなく、海外に出てみて、「日本すごい、青森すごい、青森中央高校すごい」そのようなことを感じてくれたら嬉しいです。

発言者4（2年、女子、生徒会長）

私たち2年は、今日のために県に対する要望アンケートを実施しました。その結果、通学用の電車やバスを増便してほしい。ショッピングモールや遊園地、イベントホールを建設してほしい。雇用をもっと創出してほしいという3つの要望が寄せられました。

以上の3つについてお考えをお聞かせください。

知事

県は、青い森鉄道のオーナーになっています。青い森鉄道では、今度、筒井に新しい駅ができるほか、新しい車両を2編成分購入して、便利になるようにしたいと伺っています。

東青地域県民局長

バスについてですが、青森市営バスの場合は青森市が取り組んでいます。弘南バスなど、その他のバスについては、県として、補助金を出すなどして支援しています。そして、利便性を高めるために、バス会社とさまざまな検討をしています。

知事

例えば、路線バスツアーをするとおもしろいと思います。起点から終点まで行くだけでも、いろいろな人が乗ってきますし、いろいろな場所を見ることができます。皆さんがバスのことを考えてくれているのであれば、できるだけバスに乗ってくれれば、バス会社の経営もよくなり、路線も増やすことができるのではないかと考えています。

ショッピングモールや遊園地の話がありましたが、例えば、青森市では、県民局なども入り、新町の街中で遊べるようにしたり、青森駅の隣にできたA-FACTORYとアスパムの間にぶらぶらと歩けるような場所を作れないかといった検討をしています。あと、大学生に金曜日や土曜日、日曜日に空き店舗に来てもらい、演劇、音楽、商売といった地域活動をしてもらうなど、街中で皆さんが遊べるような仕組みができれば、ショッピングモールと同じですね。全てが大規模ショッピングセンターのようになっては、つまらないと思います。

このように、街中の賑わいを戻そうと、県でも、県民局をはじめとして、一生懸命取り組んでいます。皆さんも、こんな場所だったら行ってみたい、歩いてみたいというアイデアをどんどん出してくれたら嬉しいです。

雇用についてですが、私が知事に就任して以来、ずっと取り組んできたのが、産業・雇用対策です。要するに皆さんの働く場をどう作るかということに一生懸命取り組んできました。有効求人倍率で0.29倍だった状況が、今、20年ぶりに0.6倍になりました。でも、まだゼロが付いています。100人に対して60人分の仕事しか作れないという状態になっています。自分でもとても残念に思っています。まだまだ雇用の場を作りたいので、企業の誘致や増設について、一生懸命取り組んでいきます。

それから、起業・創業と言って、商売を始めたい人たちに、お金を借りる仕組みや技術などを教えたりしています。

また、青森県にとって大事な農林水産業、この部分でも、ただ作るだけではなくて、ケーキを作るといった加工する作業を加える。1次産業で作る、2次産業で加工し、3次産業で流通させる。これらを掛け合わせる仕組みをつくり、農林水産業を6次産業化させることで、雇用の場を作る取組を進めています。

加えて、観光分野は、青森県ではどんどん伸ばせる分野です。お客様が増えれば増えるほど、経済が活発になり、お金が回ります。そうすると、働く場ができますので、この取組も進めています。

高校生の皆さんに限って言えば、去年の段階で有効求人倍率は1.11倍なので、働く場の確保はできています。でも、最大の心配は、首都圏や大都市圏で有効求人倍率が落ちてきていることです。これは、日本の産業と経済がガタ落ちして、中国やベトナム、インドネシアなどに働く場や工場などを持っていってしまう状態が続いているということです。青森県は企業誘致などを頑張ってきていますが、何よりも日本全体の働く場所が劇的に少なくなっている状況に危機感を持っています。ですので、私自身、雇用のことについては、

全力で取り組んでいます。

さらに、皆さんにお願いしたいのは、就職が決まったら、3年間はその仕事を続けて頑張ってもらいたいです。自分でも覚悟を決めて仕事をしなければ、今の日本で次の仕事を探すのは、どこでも厳しい状況になっています。ですので、就職試験を受ける前に、職業ガイダンスなどで仕事について真剣に考えてほしいです。生涯の仕事となるかどうかは、行ってみないとわからないとよく言われますが、学校としても、職業ガイダンスについては、しっかり考えてほしいと思います。就職は、一生の問題ですし、社会人としての第一歩にもなりますので、皆さんもしっかり考えていただければと思います。

県としても、高校生の有効求人倍率については、少なくとも1を超えるように、これからも頑張ります。けれども、日本そのものの産業と雇用が大変な状況になっているという現実については、皆さんも考えておかなければならない時期になったと思っています。

将来の夢は何ですか。

発言者4

美容師になることです。

知事

是非、世界的なヘア・アーティストになってくれたら嬉しいです。

◆知事所感◆

皆さんが、自分はこう生きてみたい、こうしてみたいという夢を、それぞれ持っていると思います。それが高校生ですよ。

高校生時代、いろいろな夢を持ってここ青森中央高校で過ごした仲間が、生涯を通じて一生の友達になると思います。一緒に夢を持ったり希望を持ったりして、仲間として話し合ったこの3年間というものが、

どれほど大切なものかということ、皆さんも忘れないでくれたら嬉しいです。

そして、皆さんは若い、素晴らしい力を持っています。チャレンジ、挑戦していく中で自分自身の夢を叶えていくことができるからこそ、前に向かっていけるということも忘れないでいただきたいと思います。

青森県や日本には、いろいろな課題はあるかもしれませんが、今日、こうして皆さんの熱気に触れ、青森県は大丈夫だという気持ちになりました。

今日は皆さんに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

